

SHOW HEYシネマルーム

★★★★

アメリカン・アウトロー

配給/ツイン

2003 (平成15) 年7月17日鑑賞

Data

監督: レス・メイフィールド

出演: コリン・ファレル/スコット・カーン/アリ・ラーター

ガブリエル・マクト

👁️👁️ みどころ

時代は1860年代。南北戦争は南軍の敗北で終わった。勝利した北軍は権力にまかせて、南部ミズーリ州の農民からタダ同然で土地を買収して、大陸横断鉄道の建設に乗り出した。これに反抗したのが南軍の生き残りジェシー達だ。彼らは鉄道建設による土地買収に対抗するため、白昼堂々と銀行強盗をくり返した。アウトローながら、今日まで語り伝えられている彼らの活躍を描く久しぶりに観た単純明快な西部劇。たまにはこういう映画もオススメ。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<アメリカ南北戦争の終了>

舞台は、1861年～65年の南北戦争が、南軍の敗北で終了した時からスタートする。

主人公のジェシー・ジェームズ (コリン・ファレル) は、兄のフランク・ジェームズ (ガブリエル・マクト) らと共に南軍の遊撃隊として、南北戦争に参加し、「ガンマン」としてのみならず、その知略と勇気で大活躍した。しかし南軍の敗北により、ジェシーらは、ミシシッピ川のおすぐ西にある故郷のミズーリ州に帰り、平和に農園を経営して生活しようとした。しかし・・・。

<大陸横断鉄道の建設>

勝者となった「北部」は、リンカーン大統領の指導のもとに奴隷制を廃止し、大陸横断鉄道の建設に着手した。最初の大陸横断鉄道の完成は1869年。これはアメリカ史上輝かしい成果だが、勝者「北部」によるその進め方は、①寄付の強要、②タダ同様の土地の強奪など、目に余るものがあった、らしい。

<ジェシー&ヤンガー強盗団の「活躍」>

この「北部」の横暴に対して立ち上がったのが、南軍の生き残りであるジェシーたちが結成したジェシー&ヤンガー強盗団だ。

最初の銀行強盗は1866年。ジェシー&ヤンガー強盗団は白昼堂々と銀行を襲い、約6万ドルを見事に奪い去った。この白昼の銀行強盗の発案者がジェシーということだ。その後彼らは次々と、場所を変え、銀行を変えて、銀行強盗を行った。

そして、ジェシーが1882年に34歳で背後から後頭部を撃たれて死亡するまで、16年間にわたって、彼らは銀行強盗を実行し続けたのだ。

そんな銀行強盗団は、なぜ、16年間の長きにわたって逮捕されなかったか？アメリカの警察機関はそれほど間抜けだったのか？そんなことはないはずだ。そしてまた、ジェシー・ジェームスが「アメリカン・アウトロー」と呼ばれ、伝説のヒーローとして生き続けているのはなぜなのだろうか？

<正義の味方のアウトロー>

それは、南北戦争直後の、形だけの「法と秩序」の中でまかり通っていた「北部」による力の論理に対するアンチヒーローとして、多くの人々が、ジェシー&ヤンガー強盗団を支持し、拍手喝采を送ったためだ。

パンフレットには、「土地をめぐる紛争に悩み、銀行の借金に苦しみ、鉄道運賃に怒りを抱いた大衆は、鉄道と銀行経営陣者を“ロバー・バロン（泥棒貴族）”と呼び、本物の泥棒に対しては寛容であり、時に自らジェシーたちをかくまった。勇敢な無法者は卑怯な役人より、よほど賛辞に値したのである。」と書かれている。こんな背景があったからこそ、国民大衆は、ジェシーたちを支持し、これをヒーローとして語り伝えたのだ。当時の新聞でも、「世情が彼等を悪の道に追いやった」と分析したり、「彼等が持ち去った金はその政治家や鉄道業者の収益同様、まっとうに稼がれたもの」と書いていたそうだ。

日本でも、時の権力「豊臣秀吉」に逆らった挙句に「釜ゆでの刑」に処せられた、天下の悪党、石川五右衛門が、未だにアンチヒーローとして語り継がれているのと同じようなものだろう。

<単純明快なスカッとする西部劇>

久しぶりに単純明快なスカッとする西部劇を観た。それにしてもスタンダードな西部劇はカッコいい！

そして、この『アメリカン・アウトロー』の物語はシンプルでわかりやすい。

複雑な政治的背景が存在するのは当然だが、それはストーリーが分かる程度にとどめて、アウトローのヒーローたちの活躍をとにかくカッコよく描いており、観ていて単純に楽しめる。ガンさばきのカッコよさは西部劇特有のものだ。

そして、ちょっとだけあるジェシーとジュー・ミムズ（アリ・ラーター）とのラブシーン。
1860年代のアメリカの若者の恋愛スタイルを垣間見ることができて楽しかった。
こんな映画もたまにはいいものだ。

2003（平成15）年7月19日記